

“♪ジャズの生演奏♪”で松前を元気に!!

私たち「ネットワーク松前」は、会員である藤岡緑さんが東日本大震災後の視察に行った時に、現地を案内して下さった防災士のKさんとのご縁で、去る6/24に松前総合文化センターで開催された「アメリカ空軍太平洋音楽隊演奏会」の協力をさせていただきました。

愛媛県では松前町だけの公演という貴重な演奏会を開催できたことは、とても光栄でした。

「チケット」の販売と当日の受付を担当させていただいたことで、ジャズが好きだという方が思っていた以上に多いということと、こうしてジャズの生演奏を聴く機会は意外と少ないということもわかりました。

そして、コロナ禍にもかかわらず多くのみなさまが来て下さったおかげで、音楽隊の方々も楽しく演奏することができ、会場全体が一体となってキラキラと輝いて見えました。

これからも、ネットワーク松前は、他団体とご縁をつないでいけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

ネットワーク松前 Y.G



★毎回、パズルや作品作りとサロン(西高柳)は人気の場に。



【グリーンポット作り】
By サロン
素敵な作品に仕上がりました。

編集後記

コロナウイルスも3年目となりましたが、衰退を見せる事なく、私たちも「共存」の道を歩むことになりました。またロシアによるウクライナ攻撃など、R4年上半期は心痛める出来事が続きました。そんな状況下ではありますが、皆さんストレスに負けることなくこの夏を乗り切りましょう!! (K.I)



メールアドレス

fujioka.midori@gmail.com

☆ブログ・フェイスブックでも活動内容の一部を公開しています。

～ 会長より一言 ～

皆様、コロナ禍の暑い夏をどのようにお過ごしでしょうか。

世界では戦争が止まない。人類は歴史に学ばないのでしょうか。

世界から武器を一掃し、武器は作らない世界にしたい。

物を作る時や事を始める時、「皆に喜ばれるか?」「最後まで責任が取れるか?」を考える人類である事を祈ります。

大西多美子



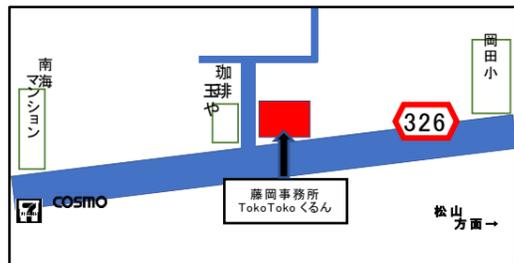
【資源(リ)回収】
いつも「苦労様です。」



集会所前には、皆さんの手作り風鈴が。(6月～8月初)



【いいとこ見つけ隊】
コロナ禍でも、アイデアでプラン実行へ。



藤岡みどりの

ワクワクレポート



第26号

2022.9.5 発行

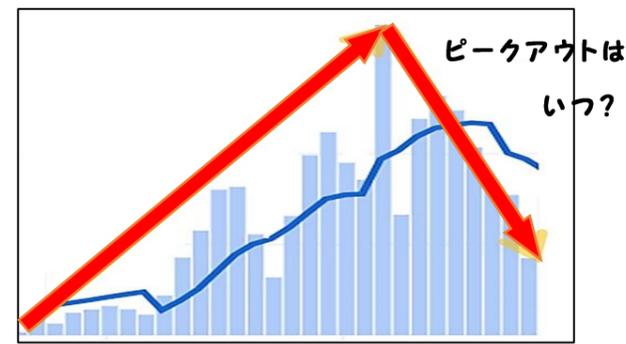


『コロナ禍、いつ第7波ピークアウトに。そして世界平和の行方は～』

6月末から8月にかけて県内の新型コロナウイルス感染者の数字が鰻上りで増加し、同時に全国の感染者の数字も驚異的なものとなりました。私たちもそれが当たり前のように受け止めてしまう日常に怖さを感じてしまいます。一方で国は社会経済活動をなるべく維持するため、行動制限をかけない政策を採り続けたため、重症者は少ないのですが、一部医療現場の崩壊、公共機関、高齢者施設現場などで担い手不足に陥り、第6波までの教訓が十分生かされていないのが現実です。

★各人の基本的な感染対策はもちろんですが、ウイルスの扱いも第2種からインフルエンザ並みの第5種へ変更する考えも議論されています。秋には地方祭りや運動会、文化祭などは是非、実施できるようコロナのピークアウトに期待します。

今年2月にはロシアのウクライナ侵攻という世界を巻き込む理不尽な戦争により、多くの犠牲者、避難民が増え続けています。また小麦や天然ガスの輸出入が滞り、食料品や燃料の高騰を引き起こし、途上国の飢餓を助長し世界中の人々の暮らしに大きな影響を与えています。
★1日も早い停戦とウクライナの復興と平和を願い、日本の外交手腕に期待します。



♪ 本場アメリカンジャズコンサートを楽しむ夕べを文化センターにて ♪

少しずつ感染対策をしながらイベントが開催される時期でもあった6月下旬、私の友人でもある防災士のK氏から5年ぶりにアメリカ空軍太平洋音楽隊のビッグバンドジャズの演奏会を是非松前町でやってみませんかとの声がけを頂き、実行委員会形式で開催しました。

コロナ禍での集客は、以前のように満席にはできませんでしたが、来て頂いた皆さんには、本場のジャズを堪能してもらえたのではないのでしょうか。

(ネットワーク松前 他関係者の方々には大変お世話になりました。)



～みどりの一般質問より～

6月

Q. 小中学校の学校給食の食材の安全性は？

A. 令和元年10月までは減農薬米を使用していたが、必要量確保のため11月の給食分から本町産の安全性に差のない一般普通栽培米を使用している。他の食材については、食品の検収・保管等の基準に基づき産地確認をしている。令和3年度の使用率は、県内産85.1%、国内産100%である。今後とも安全安心で新鮮な地場産物の活用を進めていく。

(^o^)安心安全な給食の維持をよろしく！



Q. 食材の価格高騰で気になる給食費は？

A. 令和2年度はコロナ禍で国の経済対策として牛肉・マダイ・ブリの無償提供を受け、価格の影響を最小限にすることができた。

今年2月のロシアによるウクライナ侵攻により原油や天然ガスのほか小麦など穀物の価格が高騰し、学校給食の運営が非常に厳しい状況となる。給食費を維持したままで対応するにはコスト削減を図るしかないため給食費の引き上げも視野に入れながらのコスト削減の様々な方策、支援の是非についても検討したい。

(>0<)保護者負担は最低限になるよう、町からの支援に期待したい。

Q. 町民企画講座の今後は？

A. 町民企画講座実施者に対し平成17年度に養成講座を実施し、18年度からは経費の一部を支援している。現在6講座あって10年以上継続している講座が半数以上、毎年度特定の同じ人がほとんど占めている状況だ。

当初は、より多くの町民が参画でき広く開かれた講座で町民が主体的に開催して事業化したもので、その時々々の社会情勢にふさわしい課題をテーマにしてほしいという意向があった。現状の特定の町民による固定化された講座を、当初の趣旨に沿ったものにリニューアルするためいったん休止し、新規講座を企画する人材の発掘を行う一方、有識者による講座やワークショップを行う予定だ。

併せて既存の講座開催者と町民に対し広く周知、理解を求めていく。

(>0<)方針転換は早めに、少なくとも前年度までに理由を明確にして理解を求める努力を。

★他に町営住宅の実態と、老朽化したものについては建て替えを含め、費用の掛かるものも多い現状の打開策について質問。
★またウクライナ避難民への町営住宅の提供が2戸ある旨を県に報告しているとの回答もあった。

ここが聞きたい!

Q & A



3月

Q. 町内23地区の自主防災組織は結成後すでに10年以上経過している。町としての見直しは？ (地域の防災士との連携は)

A. 平成16年度から各地域へ組織づくりを働きかけ、結成された自主防災会に対し、県の補助事業活用による防災用資機材の各組織への貸与も行っている。必要なフォローアップとして、毎年防災士育成のための養成講座の受講費用を全額負担する助成事業を行い、その防災士から地域の防災訓練の立案、指導を行うことなど自主防災会と連携し地域住民の災害対応能力の向上を図ってもらうことを期待している。

貸与している資器材については現況調査を行い今後の活動に必要なものは更新していきたい。

(>0<)助成事業で育成した防災士が、自主防災会とうまく連携した活動ができていないのが現状では。



Q. 学校の教育現場の支援について、学校支援員の配置補助に対する町の考えは？

A. 学校における働き方改革は喫緊の課題である。事務作業を補助する教員(スクール・サポート・スタッフ)の業務支援は、平成元年度から国、県の補助を受け2名配置しており、効果を上げている。具体的には、煩雑な事務作業が軽減されることで先生方が子どもたちと向き合う時間や教材研究の時間が増え、本来の先生の仕事に集中しやすくなるなど教育活動の充実につながる効果と言える。

(>0<)部活動指導員の配置は、まだできていない。

《今だからこそ、世界平和を願って・・・》



戦後77年を迎えてまた8月6日、9日、15日がクローズアップされる。広島、長崎に原子爆弾が投下され、第二次世界大戦終結そして終戦の日がやってくる。

★当時私の母は、女学校の3年生。学徒動員で長崎の港近くの軍需工場で働いていた。昭和20年8月9日午前11時過ぎ、昼食時で班別に分かれ順番で階上の食堂に行くのだが、その日は母が最後のグループだったためまだ地下の作業場にいたらしい。そのことが母の命を救った。先に食事に行ったグループの殆どの友人たちは、一瞬の閃光(殺人光線)で即死。母は爆風で倒れてきた柱と床とのわずかな隙間に救われ、無我夢中で地上に這い出し救助されたとの事。そこは爆心地から1.5km内の場所で、飛び散ったガラスの破片が体中に刺さって怪我はしていたものの、一命を取り留めたのは奇跡的なことだった。

★その後、打ち上げ花火の音が嫌いな母が被爆体験の話をするようになったのは、私が高校生のころだった。宝塚在住で40代の母は被爆者の会に入って体験を手記にまとめたり、核廃絶の活動に関わるようになった。花火のヒューという音が空襲の記憶に繋がりが嫌だったこともわかり、またつらい体験と核兵器への憎しみが拡充されていたのだろう。ただ70代に入り認知症で日々その記憶は薄れ、あるいは話せなくなってしまったのかもしれないが、今は92歳の高齢になりほぼ寝たきりで施設での生活を送っている。

★母のような実体験を持つ被爆者はどんどん少なくなっている現在、残念ながら核の脅威が日増しに大きくなっている。ロシアのウクライナ侵攻に伴って、プーチン大統領は核兵器の使用をちらつかせながら理不尽な要求や暴力を正当化している。

★戦後77年守ってきた日本の平和も世界の平和と切り離すことはできない。「平和ボケ」などと言われながらも頑なに非核3原則を守り、日本国憲法の3原則の一つである平和主義を堅持してきた。しかし中国、北朝鮮、ロシアに囲まれている海域の中で、どうこの平和を守っていくのか・・・国際協調と外交の力で何としても武器を使わない平和維持を願う。その願いは母から私へ、そして子どもたちへと受け継がれてきたが、核兵器など多くの犠牲と悲惨な世界を描き続ける兵器が世界から完全になくなるまで、私たちは訴え続けなければならないと思う。

◎議員も資料の軽減化に協力!

紙ベースで配布されていた多くの資料を電子化してペーパーレス化と業務効率化を図る目的で、議員全員にタブレット端末が貸与されることになりました。コロナ対策の交付金を活用しての導入です。運用方法やセキュリティの問題など課題もありますが、時代のニーズに合わせて頑張りたいと思います。

